

初の東京以外での総会開催

当日に修正もありつつ、新しい方針や体制を確認

京都にて2015年度総会開催 午後より講演会も

10月24日(土)、京都市内のコープイン京都で、2015年度の年次総会を開催、東京以外での初の総会開催となった。2014年度活動・会計報告と規約改正案や2015年度活動方針・予算案・人事案が提案され、議決された。

今回の規約の改正により、総会の開催を2年に1回にすることが可能になった。総会の準備には成立のための委任状取りなど大きなエネルギーを費やすため、拡大運営委員会などの形で会員からの意見はきちんと聞くやり方はとりながら、形式的な部分ではできるだけ省略して、その分イベントなどが提案趣旨となっている。同時に提案された議案により、2016年総会は拡大運営委員会として秋をめどに開催する方向性も示された。

総会では「どこまでを運営委員会に委任するのか」といった意見や指摘もあり、それを受けて規約についての当日修正も行われた。予定調和に陥らない「原発」国民投票の会らしい総会運営だった。

人事面では共同代表の杉田敦さん、宮台真司さんには、今後は顧問という形で会を支えていただくことになった(杉田さんからのメッセージ

は別掲)。運営委員も地域運営委員の一部が新しいメンバーとなった。活動方針では世論を盛り上げる周知活動を行うなど3つの提案が確認された。総会から少し遅れてのMINTでの報告となっているが、新しい運営委員体制の下、他のページで紹介されているような各地の勉強会など具体的な取り組みが進められている。

総会後は午後から元関西電力社員の速水二郎さんの講演とワークショップも行われた。総会・講演・ワークショップあわせて約40名の参加となり、新しい年度にむかっつの大きな交流・学習の場となった。



総会(採決中)

速水二郎さんの講演

総会・講演・ワークショップの三部構成

共同代表退任にあたって

杉田 敦

このほど、これまでつとめてきた共同代表を退任することになりました。この間、憲法問題をはじめとして、次々に噴出する諸問題に対応を迫られる中で、会に対して必ずしも十分な貢献ができず、申し訳ありません。

原発問題はきわめて重要な問題であるのに、選挙では争点化されないの、直接投票にゆだねるしかない。これが、会を立ち上げた際の基本認識でしたし、その有効性は今も変わっていません。他方で、自らの一方的な考えを押し付けるためには憲法さえないがしろにするという、今の政府の下で、熟議にもとづく政策決定がいかにして可能か。課題は多いと思います。

今後は顧問として、側面から会の活動を支援させていただきますので、よろしくお願ひします。ますますの発展を心から願っております。

2015年11月

ワークショップ

「模擬」原発 国民投票をしよう！

異なる意見に耳かたむけ 原発是非の論点を整理

開催

総会后、ワークショップ「模擬『原発』国民投票をしよう！」を開催した。国民投票・住民投票は単純な多数決ではなく、投票日に向かうまでの過程が大切で、また面白くもあるということを実感することが狙いだ。

まず参加者は「(1)即時ゼロ」「(2)10年後にゼロ」「(3)2030年代にゼロ」「(4)依存度を減らしていくがゼロの時期は定めない」「(5)依存度を減らさない」の5択から自分の意見を選び、番号カードを身につけた。意見番号が重ならな



いよう4、5人のグループを作り、「自分の意見」の選択理由を一人ずつ発表した。自分の意見の理由を人に分かるように伝えることは、案外難しく戸惑う参加者も多い。自分の発言時間を守り、意見が違ふ人の発言を遮らずじっくり聴くこと——ファシリテーターがルールを提示しながらすすめていく。一つひとつの理由を付箋に書き出していく。

全体ワークショップでは、縦軸を原発稼働についての選択肢(1〜5)、横軸を論点(安全性、安定供給、コスト



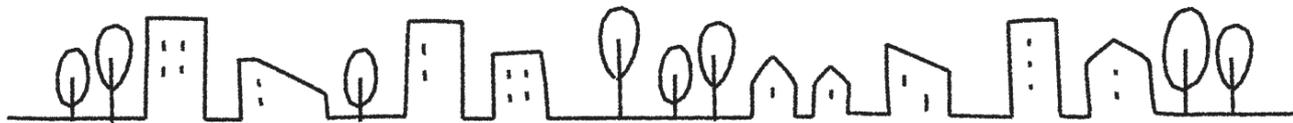
など)とするマトリックスをホワイトボードに展開、グループワークで出した意見を、みんなで議論しながらマトリックス上にプロットしていく。マトリックスを見ながらさらに議論を深め、付箋が次々と追加される。マトリックスにしたことで、原発が必要だと考える立場の意見が薄いことが一目瞭然となり、そこを埋めていく作業も行った。議論は白熱し、時間はあつという間に過ぎていった。

原発稼働の是非という課題をめぐっては、とかく人々は熱くなりか



ち。しかしある一定のフレームワークの中で、市民が冷静に問題をひも解いていくことが不可能ではないことを、今回のワークショップでは感じることができた。





各地域からの活動状況をレポート



埼玉

県民投票直接請求運動を終えた埼玉から



埼玉では2014年末より2015年始めに、原発の是非を問う住民投票を求める直接請求のための署名活動が行われた。法定署名数を達成出来ずに終わったが、一年たったいま、「ポスト県民投票運動」とでも言うような動きが活発化している。

まず、県民投票運動の記録をまとめた本を編集している。良かった点、反省点、運動の展開の仕方等のアイデアが詰まった内容で、早ければ4月にも販売開始予定だ。(ご希望の方は当会事務局までご連絡ください。)

また、映画「日本と原発」を埼玉県各地でリレー上映している。採算がとれる上映会が各地で可能となっているのは、「ポスト県民投票」のネットワークがあったからだと思われる。

★4月9日(土) 15:00

さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター

芳賀(080-3090-5022) 主催: KAKIZAKURA

★4月10日(日) 14:00 さいたま市桜区土合公民館一階
小高(090-4433-7092) 主催: 桜区ピースアクション

★5月7日(土) 18:30 与野本町コミュニティセンター大ホール
上映後、対談(雁屋哲氏(漫画家)・『美味しんぼ』作者×

井戸川克隆氏(元双葉町長) 入場料1000円
★5月28日(土) 13:30 草加市谷塚仲町440

大塚(048-928-6705) 主催: 草加らるる

※上映会を「私も主催したい」という方は、090-7702-4939(野田) 080-2381-0288(雛元)までご相談ください(5月末まで実施予定)。

最後にサポセン問題について。県民投票運動のお手伝いに来てくれた方々にはおなじみの市民活動サポセンター(浦和)は、自民党議員から「登録団体の一部が不適切な活動をしている」と指摘があり、「サポセンを市の直営とする」との条例改正が行われた。指摘された団体の中に、「原発」国民投票・埼玉県賛同人会も含まれていた。今年2月、市から「14団体に不適切な活動とは認められなかった」と各団体へ通知があった。今後の展開が注目される。

横浜



1月23日、神奈川県民活動センター(横浜市)で報告会を開催した。

原子力市民委員会事務局スタッフの水藤周三さんが、川内・高浜両原発について「地元同意」の状況を中心に解説。川内原発をめぐることは、いちき串木野市の市民団体が「実効性のある避難計画がない中での再稼働に

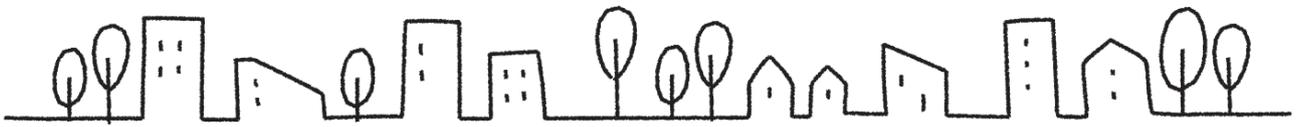
関西

八幡浜応援報告を兼ねたトークイベントを開催



2月20日、「あんのん館」(兵庫県西宮市)でトークイベント「ナットクしてます? 原発再稼働のコト。(原発再稼働と「地元」を考えるー川内・伊方、そして高浜)」を開催。15名の参加で、八幡浜住民投票の報告と川内原発が立地する鹿兒島の住民運動の紹介から、原発再稼働と地元の民意を考える機会となった。

第一部は、鹿兒島の市民グループ「天文館アトムズ」の井上真紀さんによる鹿兒島における市民運動の紹介。



井上さんとは八幡浜の応援で知り合い、このイベントにご招待。天文館アトムズは反原発グループだが、「号外」を模した街頭チラシや、「こたつ」を設置した座り込みなど、市民と交流・対話する工夫がこらされ参考になる。

第二部は八幡浜住民投票の報告。当会で最も多く応援に入った関西メンバーの本村が担当。住民投票請求の経験と結果を通じて感じた

(1)どのような選択肢であればいい？

(2)「地元」ってどこまで？

(3)住民の声を届け、効果のある方法は？

の三つの問いを挙げて、第三部の討論に繋げた。

第三部では、「地元」の概念は住民を分断する行政側の定義であって、原発との関係性で国民は皆それぞれに当事者だという視点、運動のアイデアを考える前に主権者として正攻法で議会や政治にかかわっていかうという提案など、なごやかな中にも新しい気付きがあった。

名古屋



3月5日、名古屋市千種区で八幡浜住民投票の報告会を行った。

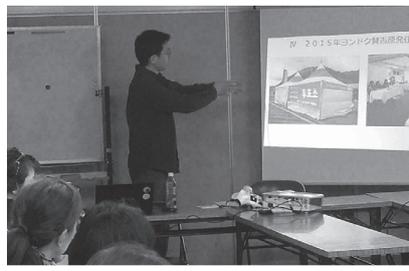
現地で活動したメンバーからは「仕事帰りの人が居る時間常に訪問するため真つ暗な中を訪ね歩くことになって大変だった」「若いメンバーがスマホを使ってあつという間に情報をやり取りしているのを見てついにスマホを

買うことにした」など、実感の湧く話が出た。何よりも、「地元」の人の声が聞けた」「頑張つて署名を集めても請求が議会を通らなかつたガツカリ感」が一番心に残っている

とのことだった。こじんまりした集まりだったが、1名は賛同人に、1名は会員になっていただくことができ、こんな会を繰り返すのもいいと実感した。終了後、会場近くの交差点で署名活動とリーフレット配布を行った。

住民投票に対する市民と市議との考え方にずれがあることが問題と考え、報告会に先立って千種区選出の市議会議員5人にアンケートを送付している。今後、直接議員事務所を訪れて各市議の意見を聞いていく予定だ。

東京



2月7日新宿区内で、韓国・慶北大学で原子力・エネルギー政策を研究している高野聡さんを講師に迎え、イベント「韓国ドラマより劇的!? 韓国脱原発住民投票を学び、語る交流会」を開催した。高野さんはソウルの脱原発団体「エネルギー正義行動」の活動経験があり、韓国の脱原発運動に精通、韓国で

の「原発」住民投票の現場もよく知る。

韓国での「原発」住民投票はこれまで4回。核廃棄物処分場の誘致を問う住民投票(2003年、2005年)と、新規原発の賛否を問う住民投票(2014年・三陟(サムチョク)、2015年・盈徳(ヨンドク)だ。2003年の住民投票では13回の地域別討論会、2回の郡合同討論会などで、市民の熟議が促された。一方、2005年は4つの地域で処分場誘致を争う形で住民投票が行われ、国策正当化の手段として利用された。投票運動では登校拒否行動や丸刈り実施、警察車両をひっくり返す市民、投票工作妨害など、運動には日本よりも激しさが見られるよう

だ。韓国における「原発」住民投票の実践は、熟議の在り方など、日本での今後の住民投票を考える上で大変参考になるものだ。

小田原



3月12日、小田原城址公園(小田原市)で「おひさまマルシェ2016」この先の未来のために〜」が開催された。当イベントは震災後始まり、今年で第3回目。当会は初めてブース出展、チラシを配りながらシール投票「原発の是非を国民投票で決めることに賛成? 反対? どうだろうか?」を実施した。

商業の町・小田原らしく、地元産の美味しいものを販売するブースが軒を連ね、観光客も多い。多くの人々が足を止める。「原発? そりゃ反対」。それを国民投票で決めることに対しては、どうお考えですか?」と問い返すメンバー。「え、国民投票?」シールを手を考え込み、震災後に国民投票で原発の是非を決めた海外の例などメンバーの説明を聞きながらシールを貼っていく。

大磯町で民主主導のエネルギーシフトに取り組む女性はいったんは「反対」にシールを貼った後、「情報が行きわたつて、公正なルールの下で行われるなら、国民投票で決めるのがいいと思う」と戻ってきた。じつと考えた後、「国民投票で大事なことを決められる国民でありたい。そういう願いをこめて」と賛成に一票を投じる人も。たくさん

2015年10月24日開催の当会総会により、新しい体制で会の運営をスタートしています。
どうぞよろしくお願ひします。

◎運営委員長 鹿野隆行 / 神奈川

◎副運営委員長

(会計) 中村映子 / 東京

(総務) 井奥雅樹 / 兵庫

(企画・広報) 石崎大望 / 奈良

(地域間調整) 森 恭子 / 兵庫

◎会計監査 塩見牧子 / 奈良

◎地域運営委員

北海道 山下元信

宮城 砂子啓子 (兼 東北六県事務担当)

茨城 近藤克敏

埼玉 竹内和泉

千葉 寶川雅彦

東京 鹿野隆行

神奈川 宮本珠江

静岡 佐久間章孔

東海 (愛知、岐阜) 未定 (審議中)

関西 (奈良、大阪、兵庫、京都、和歌山、滋賀)

大音智史 / 大阪、藤原純子 / 奈良

広島 衣山弘人

◎顧問 宮台真司、杉田 敦

◎事務局

宮本珠江 / 神奈川、鳥海幸恵 / 神奈川、

渡邊浩司 / 愛知、本村 綾 / 大阪

※運営委員会では、各地から会の運営をお手伝いくださる方を引き続き求めています。興味がおありのかたは是非お気軽にご連絡ください。



※新メンバーのごあいさつ

前任者の星丘から埼玉県への運営委員を引き継ぎました竹内和泉(たけうちいずみ)です。

埼玉県上尾市在住、職業はシステムエンジニアで、いまはマイナンバー関係のシステム作りに関わっています。仕事柄残業や休日出勤が多く、みなさんと共に活動する機会が少なくなってしまうのを残念に思っています。

前任者やその前の方と比べて、実績も実力もありませんが、埼玉の中継ぎ役として新たな適任者が現れるまではなんとかやっていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

編集後記



一か月間、何度も通った八幡浜。署名期間の前には場所すら知らなかった八幡浜市が、私にとって特別な場所のひとつになりました。あんなにも私を突き動かしていたのは何だろう。八幡浜が民主主義の最前線だという希望があったように思います。しかしこのときは「どこでもドア」を本気で欲しいと思いました！

(本村)

事務局には6つ折チラシに印刷されているハガキが返ってきます。賛同人さんや会員さんになってくださるとのご連絡、賛同や感謝のメッセージも届きます。各地で誰かにチラシを手渡し続けている会員さん、賛同人さんの地道な活動を感じ、励まされます。各地の仲間の皆さんの息吹や思いが、皆様にも伝わる6号になったかな。

(鳥海)

みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌

MINT 第6号 ミント 第6号

2016年4月2日発行

発行：みんなで決めよう「原発」国民投票

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12

かわさき市民活動センター レターケース No.36

TEL: 070-5369-9707 (PHS)

FAX: 03-5539-4046

e-mail: info@kokumintohyo.com

web: www.kokumintohyo.com

今回の会報には載せられませんでした。3月11日までの10日間、都民投票の請求代表だった野本さんのリードで、都民投票の会が渋谷駅前街頭アピールを行い、私も一会員として参加しました。直接請求と一緒に闘った仲間たちと、ハチ公前に久々に並び、嬉しかったです。これから、国民投票と都民投票の連携をますます深めたいです。(鹿野)